

雷別地区の野生エゾシカ生息動向調査

道東ではエゾシカによる農林業への被害が多数発生し、雷別地区の自然再生事業地においても被害が懸念されています。

北海道のエゾシカ保護管理計画では、全道でライトセンサスによるエゾシカの生息数調査が行われています。雷別地区においては今のところ採食圧は高くありませんが、生息数を把握し、ライトセンサスによる調査を行い、昨年度と同程度の生息数が確認されました。

また、自動撮影装置による定点写真撮影も行っています。12月の1ヶ月間の調査ではエゾシカ牝4頭、エゾユキウサギ1羽が撮影されました。

これらの調査については防除対策の必要性等を検討するため、今後も継続してデータを収集していくこととしています。



自動撮影カメラの設置



撮影されたエゾユキウサギ



撮影されたエゾシカ